

## パブリックコメント回答（提出された意見と市の考え方）

番号 1

### 提出された意見

平成 25 年 8 月 3 日の西尾・米津地区の地域別市民意見交換会において、「矢作川桜堤と小間町文化ゾーンを巡る散策路」計画案を発表させていただきました。

堀割地区では、平成 23～28 年度にかけて、県営経営体育成基盤整備事業が実施されています。コンセプトは、

- 1 担い手に分かりやすい大規模圃場
- 2 現状を重視した中にも活力のあるまちづくりを目指す

であり、地権者の 100%の同意をいただいて事業が進んでいます。内容としては、0.3～1.2ha の大規模圃場、農道は幅員 5m、用水路はパイプライン、排水路整備等を行っています。この中で、市の事業として、幅員 7～11m の市道整備、農村公園の整備をしていただいています。整備していただくにあたり、市道は交通量の増大に伴う事故の心配、公園ができることによる管理負担が発生します。地元としては、非常に嬉しい反面、このようなリスクが生じるために、地元の方が安心安全な道路計画、管理して楽しくなるような公園整備をしていただきたく、上記の散策路計画案を提案させていただきました。

そこで、西尾市都市計画マスタープラン（案）を見ますと、p.15 都市づくりの課題「2 人口・都市構造 ～ 5 自然環境、歴史・文化」に貢献でき、p.27、28 将来都市構造の「農業・集落ゾーン」の充実化に貢献できます。

以上を検討しまして、p.50、51 について主要な施策の「公園・緑地」中の”矢作川西尾緑地”ないし”稻荷山茶園公園”区域の拡大を要望します。

### 市の考え方

交通安全の確保については、p.33、34 全体構想の「道路・交通の方針」において位置づけており、この方針に基づき取り組みを進めていきます。

散策路、公園整備については、p.50、51 の西尾・米津地区の地域別構想に示すように、当地区には市を代表する緑の拠点として位置づけている矢作川西尾緑地や観光拠点の 1 つである稻荷山茶園公園が位置しており、それらの保全、整備、活用を進めていきます。また、それらのネットワークを進めることは地区全体の魅力や安全性を高めるものでもあり、非常に重要と考えています。

ただし、「緑・観光レクリエーション拠点」の拡大や新たな散策路整備は、地区全体の基盤整備や、ネットワーク化における他地区との連携、整備に対する費用対効果などのかねあいもあることから、今後の事業進捗や社会情勢を勘案しながら進めていきたいと考えます。

## 提出された意見

### ①：名鉄蒲郡線について

西尾市における都市計画マスタープランにおいて、まず懸念されるのは名鉄の蒲郡線の存続問題です。名鉄蒲郡線には現在西尾市と蒲郡市から総額 2 億 5000 万円という補助金が拠出されていると聞きますが、遠からず名鉄から突きつけられる可能性のある課題として、西尾市と蒲郡市及び愛知県に対して第三セクター化や上下分離方式といった経営存続があります。この第三セクター化や上下分離方式での存続を投げかけられた時、本当に西尾市はそれを受ける決意があるのかを検討しなければなりません。

そこで想定される予算額は、現在の補助金額とは比べ物にならない高額な物となりえる可能性があり、西尾市として本当に蒲郡線の存続のメリットがあるのか？あるいは、その打開策が見えてくるのかという点から、西尾市の吉良、幡豆地区の将来的構想もふまえてプランを構築することが望まれるはずで、蒲郡線が必要であるとしたならば、電化路線からディーゼル軌道路線への転換や、日本全国におけるローカル線の存続成功事例の研究などを積極的に考えていく事が望まれるはずで、

### ②：PR 施策について

今回のマスタープランにおいて、時代から取り残されている面として、西尾市の観光や産業 PR 面での施策の弱さを感じます。現代社会において、観光パンフレットや印刷メディアの果たす役割はどんどんと小さなものとなり、道の駅などにパンフレットなどを置いてもその役割や効果は非常に小さなものとなっています。

「西尾」という地域を西尾への来西者にイメージづけるためには、新しい視点での PR 方法の研究が必要です。いまやほとんどの自動車に装備されているカーナビのソフト内に西尾市の PR 用メッセージを盛り込む手法や、グーグルアースやグーグルマップなどの WEB データにこまめに西尾市情報を書き込んだり、あるいは Youtube などの動画サイトに西尾市のイメージ動画を投稿・掲載するなどの新しい手法が必要です。アメリカやヨーロッパの多くの国のローカルな街の PR 方法としては、この WEB 動画によるものが最も効果があるとされ、競うように街の PR 動画を活用していますが、そうした新しい視点が必要ではないでしょうか。

## 市の考え方

### ①について：

名鉄蒲郡線及び名鉄西尾線は主要な交通基盤の一つであり、廃線させてはならないものとして考えています。p. 28 全体構想では、公共交通軸として利用促進を図ることを位置づけており、p. 36 「道路・交通の方針」において維持・存続を明記しています。

また、全体構想を踏まえ、地域別構想においても、吉良地区（p. 66、67）及び幡豆地区（p. 70、71）で名鉄蒲郡線の充実・利便性向上を位置づけています。維持・存続に向けては、鉄道事業者とも協議等を実施しつつ、いただいたご意見を参考とさせていただきながら取り組みを進めます。

### ②について：

本市における観光などの PR 手法としては、p. 40 全体構想の「自然環境・都市景観の方針」において、観光パンフレットの充実の他に、インターネット、マスコミなどの有効活用についても位置づけています。

この方針に基づき、ご意見の通り、印刷物のみならず、インターネットなどの様々な手法で市の PR を進めていきます。

## 提出された意見

### ①公共交通の施策について

第7次西尾市総合計画に基づく西尾市都市計画マスタープラン（案）の全体構想で述べられている「将来都市構造の基本方針」で、西尾の都市交通軸として名鉄西尾・蒲郡線が当地区における公共交通の主軸と位置付けられています。

このことは市政世論調査で毎回最上位にあげられる「公共交通施策の充実」を行政方針の大きなテーマとして取り上げて頂いている事の証しと敬意を表する次第です。

これに関連して、以前から多くの市民が心配している事の一つに西尾線米津橋鉄橋の老朽化があります。市政懇談会でこの話題が出た時に、所管の方は「鉄橋は昭和3年、当時の碧海鉄道により築造され（築85年）、昭和19年に名鉄に併合されて以降、2年ごとに名鉄が安全チェックを行っているので大丈夫だと思う。」との説明を頂きました。

土木構造物の寿命は一般的に50～100年（学会でも特定していないが、諸学説あり）ということ、また古い構造基準、古い施行技術で構築されたこと、ましてや「これまでに経験したことが無いクラスの自然災害」が多発する昨今のことを考えると、ここは一民間企業の調査だけに任せず、行政としての見識を強く発するべきだと思います。名鉄は定期調査の結果、不具合が発見されれば即運行停止とすることは間違いありません。多数の人命にかかわる問題だからです。結果、明日にでも公共交通（鉄道）ストップは十分有り得る話で、西尾17万都市の機能が瞬時にして麻痺し、市民の日常生活に多大な影響、被害をもたらすことに繋がります。

ここは、危険予知の立場から市、有識者を交え、名鉄と共同して精密調査（橋桁、鉄橋）を行うと共に橋の付替えのロードマップを作成、複線化、高架化を視野に入れながら「確実な公共交通施策」の具体的な施策としてマスタープラン文面に折込み、実践をすべきと考えます。市政世論調査で毎年トップにあげられる施策要請であれば、財政措置に対する市民の理解は十分得られると思います。

### ②文化創造について

当マスタープランの基本理念として「安全と潤いのある 歴史・文化が息づく創造快適都市 西尾」が目指すべき将来の都市像としてうたわれています。その展開として5つの課題が挙げられていますが、そのうちの「5 自然環境、歴史・文化」に関して一つ意見を申し添えたいと思います。

城下町としての西尾にはもちろん他に誇れる歴史・文化がありますが、更に新しい文化を創造していく視点の明文化を是非お願いしたいと思います。

第7次総合計画の理念として冒頭に挙げられている「自然と文化と人々がとけあい 心豊かに暮らせるまち 西尾」とあるように、今の時代、我々市民の心の満足度は間違いなく物から心へと変わってきています。これは成熟社会の必然であり、この要求に応えることは市政をあずかる人の使命だとも思います。

先人が残してくれた文化を享受するだけにとどまらず、市民の潜在的な要求は間違いなく自身参加型の文化となり、特に若い人達の間ではその傾向が強くなっています。このための環境整備は、次世代への遺産という観点からも重要であり必須であると思います。

例えば、協働を前提とした文化行政組織の見直し、文化事業に関連する公共施設の運用見直し等々、市民が新たな文化を享受・創造できるような環境整備を是非明文化して頂きたいと思います。

## 市の考え方

### ①について：

ご意見の通り、南海トラフ巨大地震などのこれまでに経験のない規模の災害発生が危惧されていることも踏まえ、本計画では、p.42 全体構想の「都市防災の方針」において、ライフラインの耐震化促進を位置づけているほか、p.50 地域別構想の西尾・米津地区の「主要な施策」では名鉄西尾線の高架化・複線化促進、ライフラインの耐震化を位置づけています。また、p.75「安全・安心の確保に向けた方針」でも、「住民の生活や経済活動に大きな役割を果たすライフラインや交通物流の機能確保」を明記しています。

なお、具体的な政策としては、現在、西尾市地域公共交通活性化協議会において策定中の西尾市地域公共交通計画との整合性を図りながら、今後の取り組みを進めていきます。

### ②について：

本市における歴史的・文化的資源は、その保全・活用を図るためp.40、41 全体構想の「自然環境・都市景観の方針」において、歴史保全地区として位置づけています。また、p.46「その他都市施設の方針」では、歴史文化施設を利用しやすく整備すること、文化交流・歴史学習の拠点としての再整備を位置づけています。

さらに、全体構想を踏まえ、各地区の地域別別構想では、それぞれの地区が有する歴史的・文化的資源を中心として歴史保全エリアを位置づけ、その保全・活用を明記しています。

この方針に基づき、いただいたご意見を参考とさせていただきながら、今後の文化事業の取り組みを進めていきます。